



第二の橋で甲羅干しするワニの群れ



レダの朝は黄金の輝きで明ける

かと思うと、静かに走り行く車の前方三十m程に、突然黒い狐のような動物が一匹戯れながら道路に出てきた。まだ生育しきれていない兄弟のようで、遊びが楽しくてしょうがないという感じでじやれていたが、こちらに気づき、車の音と姿に一瞬驚いたようだが、逃げずにじっと様子を見ている。こちらが止まると、又じやれ始め、サツと草むらに隠れたと思ったら、車のすぐ脇に可愛い姿をひょっこり見せて又草むらに消えて行つた。愛嬌がある動物だ。

暫く行くと今度は、道路に陸亀がゆっくりと歩いていた。直径が四十cm以上はあるだろう。黄色い斑点のある綺麗なおとなしそうな亀であった。同行していたレダ警察署長さんが、「基地に持つて帰つてセニョール飯野の妻に見せてあげたらどうか。」と言つてきた。

「いや、自然のままにして置いてあげた方が亀にはいいのだ。」と答えると、「あなた方は自然を守る人々ですね。」と言つていた。実際、実物を生きたまま妻にも見せてあげた地の人は、ワニでも亀でも捕まえたら食べてしまう可能性が大きいので、連れて帰らない方がいいのだ。



第二の橋でトウユコと群れをなすコンドル



木の上で睨みをきかす大型の鷹



体長10cmほどのハチドリ

多分九官鳥の仲間と思われるが、トウユコと共にパンタナールの鳥のシンボルである、くちばしの大きく黄色いオオハシが二羽、「コロコロルー、コロコロルー」と涼やかに鳴きながら、飛んでいった。皆にも見せてあげたいのに、カメラは間に合わない。

道路につがいのトウユコがゆっくりと歩いていた。車を静かに止めて、道から外れていくのを待つた。やがておおらかに2mほどもある両翼を上下しながら仲良く空に舞つて行つた。美しい飛び方にしばし感動しながら見とれていた。

気がついたらビデオカメラは止まつたままだった。

やはり、出かけてきてこの感動は体験するのが一番いい、としみじみ思った。

(飯野記)

レダ農場にて人類の食料問題解決の道を探る！



稻作、作付回数、時期、収量

レダでは、2005年の10月から、稲作に関する実験が本格スタートした。40m×40mの田んぼが5面準備され、米の品種別あるいは、苗の田植え式と種の直播式などの違いによる生育研究などが始まった。林農業担当委員長、吉澤顧問、西氏などの農業プロジェクトチームが現地入りして、船見氏、伊達氏などが継続して担当してきた。3ヶ月で収穫が出来る。2月17日稲刈りが行なわれた。

月 度												評価項目【A-5-B-3-C-1-D-2】										計
7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	優等	良等	可	需	良入	可	需	良等	良等	良等	合計
晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	良	良	可	需	良	可	需	良	良	良	41
南風	南風	南風	南風	南風	南風	南風	南風	南風	南風	南風	南風	良	良	可	需	良	可	需	良	良	良	41
晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	良	良	可	需	良	可	需	良	良	良	26

18

1. 最適期間 : 7月~10月
: 11月~2月
 2. 鳥害対策を“最重要取り組み”事項とする

『地球環境と人間

清水潔』より

野生生物はどうしてへっているのか

どれほどへっているか

40億年前、地球上に生命が誕生して以来、生命は進化しつづけ、たくさんの生物の種が生まれた。

現在、その数は500万から1000万種といわれる。科学的にあきらかにされている野生生物の種は、そのうち約140万種ほどである。科学的に分かっているものも、分かっていないものも、いま多くの生物の種が絶滅したり、絶滅しようとしている。

生物は進化していくあいだに、気象や地形などの変化や生物の種どおりの競争によって、これまで多くの種がほろんていった。自然のなかでおこる種の絶滅は、長い時間をかけておこなわれている。

いま進行しつづある生物の種の絶滅は、地球の歴史がはじまって以来のスピードなのだ。

生物の種の進化の歴史の中で、短期間に大量の種が絶滅した時代もあった。いまから6500万年ほど前、恐竜をふくむ多くの生物の種が突然のように絶滅している。地球規模の環境の変化が原因だが、この時代でも、およそ1000年の間に1種の生物種が絶滅したと考えられている。ところがいまは、2020年までに50万種から150万種が絶滅すると予想されているのだ。

なぜ野生生物を守らなくてはならないのか

健全な地球環境を守るために

野生生物を守るということは、かぎられた生物の種だけを守るということではない。地球上のさまざまな野生生物が、生きていくようにすることなのだ。

さまざまな生物がいることは、かれらが生活をしていくほどさまざまな環境があるということなのだ。そして、地球上のすべての生物の種は、生態系（→10ページ）の一員として、人類もふくめてたがいに関係あつている。だから、さまざまな生物が生きていくということは、地



▲けがをして保護されたミツユビナマケモノ

球の環境はよいという基準のめやすになるのだ。

②生物資源を守るために

これまで人間は、野生の生物から、食料や燃料、衣料品や薬の材料をえてきた。利用してきた生物の種が一度ほろびると、ふたたび人間の手で作りだすことはできない。まだよく知られていない生物の種がほろぶことは、薬の材料や作物の品種改良に役立つなど、人類が将来生きていくのに必要な大切なものを失うことを意味するのだ。

③心のうるおいを守るために

さまざまな生物は、科学研究の材料や、絵や音楽の題材になっている。草花や野生の動物を見たりすると心がはれる。野生生物を守ることは、精神的な豊かさを守ることなのだ。

野生生物がへっている原因

国際自然保護連合の調査によつぎのようになる。

①野生生物のすむ環境が破壊されたり、悪くなるため。

とくに、熱帯雨林の破壊や悪化は、野生生物がへる大きな原因となつてゐる。熱帯雨林は、地球上の生物の種のほぼ半分がいる。この熱帯雨林をふくむ熱帯林が急速にへりつつあるため、2020年までに、全世界の生物種の5～15%、50万種から150万種が絶滅すると予想（世界資源研究所の1989年調査）されている。

②人間による乱獲のため。

③新しく入りこんだ動植物の影響。

④食べものの不足。

⑤農作物や家畜を守るために殺害。



インドサイの親子 インド・アッサム地方に千数百頭しかいない。

南北米福地開発協会 事務局
〒二二三一〇〇〇一
神奈川県川崎市高津区
溝口三一十一十五
岩崎ビル四F
電話 〇四四一八二九一二一八二一
FAX 一〇一八〇一七七六八〇四七一
会費納入 郵便口座

内容 地球温暖化と植樹の重要性、
費用 三千円（昼食付き）
場所 南北米福地開発協会事務局
第三回 九月一七日 午前一〇時～午後五時まで
第四回 一一月一七日 レダ開発について
詳細は後ほど連絡します。

レダに住む 貴重な陸力メ



体長 40cm位